

事務事業及び予算の執行実績

(令和6年度「一部、令和5年度分を含む」)

静岡県立三島北高等学校

三島市文教町1丁目3番18号

電話番号 055-986-0107

FAX番号 055-986-2480

目 次

事務事業の概要	1
事務執行の根拠法令調	26
学校施設の概要	27
在籍生徒調	29
入学志願者及び入学者数調	30
卒業生の動向調	31
生徒の状況	32
授業料収納状況調	33
県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調	35
保管現金有高調	36
預 金 調	37
郵券等受払調	38
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	39
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	40
委託料に関する調	41
負担金支出調	45
建築工事調	47
公有財産調	51
借地借家等調	53
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	55
行政財産貸付・使用許可調	56
普通財産・借受財産等貸付調	57
主要備品調	58
職員調	60
職員の年齢調	63
健康管理	64

□□□□□□

事務事業の概要

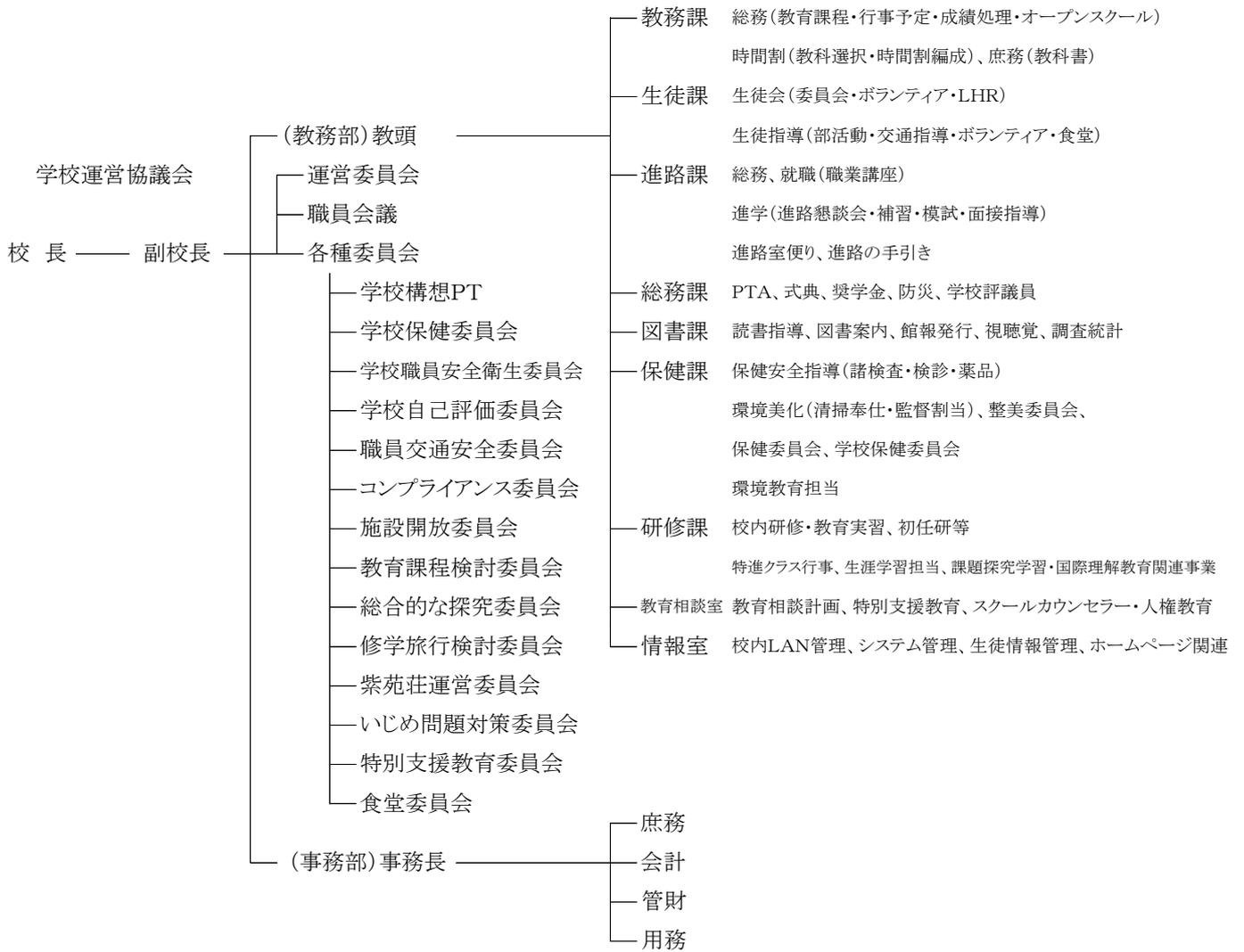
1 概況

(1) 学校の沿革

- | | |
|-------------|---|
| 明治34年5月1日 | 明治34年4月10日設立を許可、静岡県田方郡立三島高等女学校として、三島町小浜台の小松宮御別邸を借用して開校。本科4年、技芸専修科2年 |
| 明治36年2月1日 | 同地に校舎新築落成 |
| 明治41年4月 | 本科2学級、定員400名 |
| 明治44年3月 | 実科（3年制）を設置 |
| 明治45年3月 | 技芸専修科を廃止 |
| 大正10年4月 | 本科3学級、定員600名。実科を廃止 |
| 大正11年4月1日 | 静岡県立に移管、静岡県立三島高等女学校と改称。12学級、定員600名 |
| 大正13年12月9日 | 三島町宮町3559番地に校舎新築し移転 |
| 昭和5年6月3日 | 天皇陛下行幸 |
| 昭和9年4月9日 | 専攻科（補修科）設置、定員50名 |
| 昭和17年4月1日 | 本科16学級、定員800名。専攻科を補修科に改称 |
| 昭和23年4月1日 | 学制改革により新制高等学校として発足（普通科6学級）
静岡県立三島第一高等学校と改称 |
| 昭和23年9月1日 | 定時制夜間課程（普通科）開設。定員80名 |
| 昭和24年4月1日 | 静岡県立三島北高等学校と改称し、男女共学制を実施 |
| 昭和25年4月1日 | 全日制募集定員300名 |
| 昭和26年10月12日 | 創立50周年記念式典挙行 |
| 昭和30年11月26日 | 定時制教育振興会創立 |
| 昭和32年5月22日 | 現在地三島市芝町西鑑坂3131に校舎新築、移転（旧校地と校舎を三島市に移管） |
| 昭和33年5月26日 | 完全給食開始（2編成） |
| 昭和35年7月12日 | 講堂兼体育館竣工 |
| 昭和35年10月14日 | 創立60周年記念式典挙行 |
| 昭和35年12月2日 | 定時制雇用主連絡協議会結成 |
| 昭和38年4月1日 | 全日制募集定員350名（1学級増） |
| 昭和40年3月25日 | 第2棟校舎第1期工事竣工 |
| 昭和41年1月1日 | 町名変更、三島市文教町1丁目3番18号 |
| 昭和43年4月1日 | 全日制募集定員336名 |
| 昭和44年4月1日 | 全日制募集定員329名、定時制募集定員120名（1学級増） |
| 昭和45年4月1日 | 全日制募集定員322名 |
| 昭和46年4月1日 | 全日制募集定員315名 |
| 昭和47年10月27日 | 創立70周年記念式典挙行 |
| 昭和48年2月14日 | 給食室・柔剣道場竣工 |
| 昭和50年1月15日 | 定時制運動場夜間照明施設竣工 |
| 昭和53年7月15日 | 生活館（紫苑荘）竣工 |
| 昭和54年4月1日 | 定時制募集定員80名 |
| 昭和55年3月31日 | 新体育館竣工 |
| 昭和56年8月13日 | プール竣工 |
| 昭和56年9月12日 | 創立80周年記念式典挙行 |

昭和57年4月1日 定時制募集定員40名
昭和58年4月1日 定時制募集定員80名
昭和61年2月14日 定時制運動場夜間照明施設増設工事
昭和63年10月31日 第2棟耐震補強工事竣工
平成3年5月8日 創立90周年記念式典挙行
平成4年3月27日 格技場竣工
平成5年3月26日 校舎改築工事（北校舎、昇降口棟、格技場、その他付属棟、外構工事）
平成5年4月1日 全日制募集定員301名
平成6年3月25日 部室棟竣工
平成6年4月1日 全日制募集定員252名（1学級減）
平成7年4月1日 全日制募集定員246名
平成7年8月30日 生活館渡廊下竣工
平成8年4月1日 全日制募集定員240名
平成9年4月1日 定時制募集定員40名（1学級減）
平成13年11月2日 創立100周年記念式典挙行
平成16年4月1日 男女共学となる
平成19年4月1日 全日制募集定員280名（1学級増）
平成20年4月1日 定時制募集停止
平成21年8月21日 第2棟耐震補強工事竣工
平成22年3月19日 弓道場竣工
平成23年3月31日 定時制課程閉課
平成23年4月1日 全日制募集定員240名（1学級減）
平成23年5月13日 創立110周年記念式典挙行
平成24年3月31日 第二体育館耐震補強工事竣工
平成24年4月1日 全日制募集定員280名（1学級増）
平成26年4月1日 文部科学省 スーパーグローバルハイスクール指定（平成30年度まで）
平成27年3月20日 多目的グラウンド竣工
平成31年4月3日 文部科学省「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業」
拠点校指定（令和3年度まで）
令和3年11月4日 創立120周年記念式典挙行

(2) 組織図



2 目指す学校像(令和6年度学校経営計画書より)

(1) 教育目標

校訓 「自律」 校風 「醇美」

- ア 健やかな心身を育てよう
- イ 豊かな人間性を培おう
- ウ 確かな学力を身に付けよう

スクール・ミッション

豊かな人間性と深い教養の涵養を目的とする学校として、三島・田方地区の自治体や県内外の大学、企業、高校などとの連携のもと、自ら課題を設定し、解決に向けチームで協働しながら取り組む探究活動をとおして、国内外で活躍し、持続可能な社会の構築に貢献するイノベーティブなグローバル人材の育成を目指す。

スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>健やかな心身、豊かな人間性、確かな学力を備え、新たな価値を創造するため、自ら課題を設定し、学び、考え、実践する態度や能力を育成します。また、社会性や規範意識、主体性や協調性を身に付け、他者と協働して課題を解決していこうとする態度を養います。さらに、予測不能な激しい変化に柔軟に対応し、持続可能な社会の構築に積極的に貢献しようとする姿勢を涵養します。</p>	<p>様々な教科・科目をバランスよく学習する教育課程を編成するとともに、すべての教育活動において、生徒一人一人の個性伸長と自己実現を支援する取組を実施します。また、基礎基本を重視した確かな学力を育成する授業等を基盤として、課題発見・解決力、論理的思考力・規範的判断力、国際感覚等を育む探究的な学び・協働的な学びの充実を図ります。</p>	<p>「伝統ある自律の精神と醇美の校風を自覚し、高い志のもと、社会に貢献する有為な人材となるために日々の努力を惜しまない生徒」「常に課題意識を持ち、その解決に向けて仲間と協働することができる生徒」「毎日の授業を大切にし、部活動や学校行事等に積極的に取り組み、自身を成長させようとする意欲のある生徒」を求めます。</p>

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 基本的な生活習慣の確立と心身の健康の保持・増進、豊かな人間性の醸成
- イ 確かな学力と幅広い教養の育成に資する学習指導
- ウ 高い志と自律の精神に基づく自己実現を支援する進路指導
- エ 課題発見・解決力、論理的思考力・規範的判断力、国際感覚等を備えた人材を育成するための探究的な学び・協働的な学びの深化
- オ 家庭や地域等との連携を基盤とした信頼される学校づくり・開かれた学校づくり
- カ 安全・安心な学校につながる学習環境の整備・充実
- キ コンプライアンスの徹底と学校における働き方改革の推進

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和5年度の取組目標への評価及び成果と課題

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	基本的生活習慣の確立と心身の健康の保持・増進、豊かな人間性の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守るように心がけている生徒 95%以上※ ・整備委員会による環境美化週間の実施 各学期1回 ・生徒による生活キャンペーンの実施 各学期1回 ・挨拶をしっかりと行うよう心掛けている生徒 90%以上※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・(生徒:A)時間を守るよう心がけている生徒は 96.3% ・朝読書の時間を守っている生徒 90.2% ・(保健:A)環境美化週間を毎学期実施した。 ・各学期1回、HR代表を中心にあいさつ運動を兼ねて実施した。 ・挨拶をしっかりと心掛けている生徒 89.3%。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より 0.8%上昇した。概ね生徒は時間を守ることができている。 ・自主的に始める 8:10 着席は三島北高校の風土を物語る大切な伝統であり、その意識は不易なものとして大切にしていきたい。 ・環境美化に対する意識の高揚を図ることができた。 ・生徒と教員が一体となって取り組んだ。次年度も継続して取り組みたい。 ・挨拶の大切さを伝えながら、コミュニケーション能力向上の基礎を構築していきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりの発行 月1回 ・健康観察アプリの活用率 90%以上 ・信頼できる先生がいる生徒 90%以上※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・(保健:A)保健だよりを月1回以上発行した。 ・健康観察アプリを活用して健康状態の把握に役立てた。 ・(全体:B)教員を信頼できている生徒 84.8%。 <p>1年2年3年(ABB)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・自己の健康管理に対する意識の高揚を図ることができた。 ・カウンセリングの実施率は3人の先生方を合わせて 90%以上であった。 ・クリックするだけで相談を申し込むシステムを作り、学期始めのアンケートと併せて、実際に教員への相談やカウンセリングに繋げることができた。 ・昼休みの教育相談室開室は100%に近かった。気軽に来室できるしくみを作り、来室者が増加した。

					<ul style="list-style-type: none"> ・担任の先生を中心に、生徒への声掛けや様子の観察が常時行われた結果だと考える。
		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や学校行事に熱心に取り組んでいる生徒 95%以上※ ・図書年間貸出数（4～12月集計） 2000冊以上 ・生徒の満足度 90%以上※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・（全体:B）部活動や学校行事に熱心に取り組んでいる93.2%。 ・（図書:B）12月までの貸出図書数は1895冊 ・（図書:A）芸術鑑賞教室の満足度99%。 		<ul style="list-style-type: none"> ・東海大会、全国大会へ出場した運動部は2、文化部は4であった。より多くの部が高いレベルの大会へ出場できるようお互いに切磋琢磨していく雰囲気を醸成していきたい。 ・4月の貸出が例年より少なかった。ガイダンスで、新たに導入した新聞記事検索を中心に行ったため、新聞記事検索回数は上昇したが、図書貸出数に影響してしまった。ガイダンスの方法を再考したい。 ・生徒の進路や興味関心等も考慮し、演目を精選していきたい。
イ	<p>確かな学力と幅広い教養の育成に資する学習指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理解を深める工夫をしている授業 90%以上※ ・主体的な活動や生徒同士の対話がある授業 90%以上※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・（全体:B）理解を深める工夫をしている94.8% ・（数学:B）授業の目標提示、課題や問いを工夫して行うことができた。 ・（保健体育:B）北高組体操（2人組）など、生徒が自主的に取り組む活動を復活させた。 ・（情報:B）Googleの各種機能を利用して、学習に対する連絡事項や資料をアップすることで、授業に対する意識を高めることができた ・主体的な活動や生徒同士の対話がある授業と答えた生徒 91.7% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・（地公）一台端末の利用をもっと積極的に行っていくべきである。 ・（数学）授業で対話活動を取り入れていきたい。 ・（理科）主体的活動について目標に達していなかったため、授業内での課題・問いの改善やICT機器の活用を積極的に行っていきたい。 ・（情報）次年度から共通テストの実施が開始されるので、引き続き関係各所から情報を入手しながら教材研究していきたい。 ・（保健体育）グループ活動、対話的授業を構築することで主体的態度を育成したい。声

		<ul style="list-style-type: none"> ・(国語:A)各単元で、主体的活動やグループ等での対話を心掛けた。 ・(地公:B) 主体的な活動や対話を行う授業を心掛けることができた。 <p>・家庭学習時間平日平均 120 分以上※ 休日平均 200 分以上※</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(国語:A)各単元で、主体的活動やグループ等での対話を心掛けた。 ・(地公:B) 主体的な活動や対話を行う授業を心掛けることができた。 <p>・平日は平均 151 分、休日は平均 268 分</p>	<p>(会話等) を出すことにも着目したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(英語) 理解を深める工夫をしている授業、主体的な活動や生徒同士の対話がある授業の評価が高いため、今後も授業時間で積極的な言語活動を継続させたい。 ・学年ごとに集計しても 2,3 年生は目標値を超えている。1 年生も 12 月に入り、家庭学習調査を行い意識の向上を図っている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の実施 年 3 回以上(「学びの基礎診断」の結果分析を含む) <p>・教育課程検討委員会の開催 年 3 回以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(研修:A) 進路課による学びの基礎診断結果分析研修、相談室による発達障害に関する研修、定期訪問時の校内研修を実施し、全職員が参加した。また、年次研修者がチーム研修で 10 件のワークショップを実施した他、全教員による相互授業見学強化月間(11 月)や、授業アンケート(11 月～12 月)を実施した。 ・職員全体に対し、年度当初に Google Classroom の活用に向けた基礎研修を行い、ICT の積極的な活用を促した。 <p>・教育課程検討委員会を 4 回開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(研修:A) 進路課による学びの基礎診断結果分析研修、相談室による発達障害に関する研修、定期訪問時の校内研修を実施し、全職員が参加した。また、年次研修者がチーム研修で 10 件のワークショップを実施した他、全教員による相互授業見学強化月間(11 月)や、授業アンケート(11 月～12 月)を実施した。 ・職員全体に対し、年度当初に Google Classroom の活用に向けた基礎研修を行い、ICT の積極的な活用を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(研修) 学びの基礎診断結果分析研修、発達障害に関する研修では、外部の講師を迎えて専門的な知見を全職員で共有した。定期訪問時の校内研修は学校独自でテーマを設定し、校内事情に合った研修を実施した。年次研修者が企画したチーム研修は、年次研修者以外も参加し、充実した。相互授業見学強化月間においては、他教科の授業の参観も活発に行われた。授業アンケートは各教員の実施後に各教科にとりまとめる過程を通じ、教科内での課題の共有に役立った。 ・教員が各自工夫して Google Classroom を活用しているようである。次年度は Classi についても、より有効な活用を促していきたい。 ・2 年次に文理選択を行う教育課程への変更を決定した。 ・来年度は、学校設定科目の観点別評価が始まるので、引

					き続き、各教科での検討をお願いしたい。
ウ	高い志と自立の精神に基づく自己実現を支援する進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・将来に対する明確な夢や目標を持っている生徒 70%以上※ ・学校は適切に進路情報を提供していると思う生徒 90%以上※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・(全体:B)将来に対する明確な夢や目標を持っている生徒 59.4% ・(全体:B)適切に進路情報を提供していると思う生徒 82.5% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な選択肢があるからこそ目標を絞り切れないというケースが見られる。1・2年次における進路啓発事業を通して見聞を広めると同時に興味のある分野を深め、進路選択における「軸」となるものが持っていると良い。 ・将来への目標が低い。大学進学の後まで意識できるような進路指導、講演等を充実させたい。 ・新課程入試初年度の学年にあたる2年生は、より多くの情報を求めていることも考えられる。2年生の大学訪問は、より大学での学びの様子が分かるような内容を検討する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けて努力している生徒 75%以上※ ・第1志望の大学に出願する生徒の割合 70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・(進路:B)進路実現に向けて努力している生徒 69.8% ・ハイレベル講話に加えて、ミドルレベル講習など学年の生徒の状況に応じて、該当学年の学力層に応じた指導を学年主体で実施した。 ・習熟度に合わせた授業の展開や、苦手な生徒を対象とした放課後講座を開講した。 ・出願状況は記入時点で把握できていないが、国立難関大学を検討している生 		<ul style="list-style-type: none"> ・「進路実現に向けての努力」と「将来に対する明確な目標」は表裏一体と言える。総合型選抜や学校推薦型選抜の増加に伴い、低学年時からの進路実現に向けての準備も必要となる。3年次を見通して、低学年時から職業理解関連講座や体験活動への参加、資格取得の奨励に更に力を入れる。 ・3年生は、高い進路目標を維持しつつ進路実現に向けての努力が感じられる。 ・1年部ではハイレベル講習に加えてミドルレベル講習を設定してきた。

			徒は 17 名で昨年度の出願人数（5 名）を上回っている。1 年 2 年 3 年(BBA)		
エ	<p>課題発見・解決力、論理的・批判的思考力、国際感覚等を備えた人材を育成するための探究的な学び・協働的な学びの深化</p>	<p>・授業が論理的思考力等を高めることにつながっていると答える生徒 90%以上※</p> <p>・英語力や国際性が高まったと考える保護者の割合 60%以上※</p>	<p>・(全体:B)授業に論理的思考力を高める工夫があると答えた生徒 78.5%。</p> <p>・学校設定科目でより手厚く指導している生徒だけでなく、総合的な探究の時間の複数のチームが外部のコンテスト等で選考を通過したり入賞したりした。</p> <p>・(地歴:B) 各科目の授業においてレポート課題を課して、単元ごとのまとめを行った。</p> <p>・(数学:A) 1つの解法だけでなく、様々な解法を授業で紹介し、多角的に問題をとらえることができるように工夫することができた。</p> <p>・(理科:B) ポートフォリオの作成、生徒実験を昨年度よりも多く行い、思考判断表現を高める授業ができた。</p> <p>・「本校の学びを通して子どもの英語力や国際性が高まった」と回答した保護者は全校平均で 56.3%であった。学年進行でポイント</p>	B	<p>・(教務) 昨年度より 2.3%下降した。目標値には全く届かず、特に 2 年生が低くなっている。</p> <p>・(研修課) 論理的思考力を高めるための授業設計や定期試験の作問における工夫は、どの教科も確実に進んでいるが、生徒に意識させていないケースが多いようだ。生徒のメタ認知に働きかけるさらなる工夫が必要だ。</p> <p>1 年次で多面的なプロポーザルを考察し、2 年次でソーシャルビジネスを構想して社会的な課題の解決を目指す総合的な探究の時間のカリキュラムは、完成・充実期を迎えている。一部「タイプ」重視の傾向が強く見られる生徒の気質的变化を教員が共有し、粘り強く、答えのない課題に取り組むマインドセットの涵養をさらに推進する必要がある。</p> <p>・(3 年部) 教員の教科指導力をもっとあげ、生徒の期待に応えていきたい。</p> <p>・(研修課) 「総合的な探究の時間」において、2 年次に全チームが 2 年間の研究成果を英語ポスターとして発表した他、オンライン英会話を 3 回</p>

			が高くなっており、3年生では60.6%を達成した。		実施した。学校設定科目「海外研修」の4年ぶりの現地研修の実施、希望者を対象とした「英語速読・聴解の極意」講座やGlobal Studies Programの実施など、多様な機会を提供することができた。
オ	家庭や地域等との連携を基盤とした信頼される学校づくり・開かれた学校づくり	・入学させて良かったと答える保護者 90%以上※	・(全体:A)入学させて良かったと答える保護者 91.3% ・数年ぶりにPTA活動を行い活性化できた。	A	・組織改革、業務内容等、来年度へのスムーズな引継ぎを行う。
		・一日体験入学の参加中学生 1000人以上 ・情報発信に熱心であると答える保護者 70%以上※	・(教務:A)一日体験入学に参加した中学生は 1247人 ・(情報室:B)情報発信に熱心であると答えた保護者は 69.1%		・一日体験入学、オープンスクールともに、多くの中学生が参加した。 ・部活動のページについて、記事更新ペースが遅れがちのため、結果報告的な簡単なものでも良いので、もう少しペースアップしていけるように工夫したい。
		・地域や社会の課題に対し意識が高まった生徒 60%以上※	・(全体:B)地域や社会の課題に対する意識が高まったと回答した生徒は 68.5%であった。 ・三島サンパ等地域の行事に参加した。		・地域のイベント参加、奉仕活動等への参加促進を行って地域や社会課題を意識できるような機会を設ける。
		・年3回の協議会開催	・5月、10月、2月年3回予定通り開催することができた。		・委員の方に文化祭等の学校行事、授業について見学をしていただき生徒の実態を理解していただいた。 ・学校運営に関してそれぞれの立場からの率直な意見を伺うことができた。今後は御意見だけでなく生徒たちの成長に直接関わっていただけるような体制作りを検討したい。
カ	安全・安心な学校につながる学習環境の整備・充実	・いじめや体罰等に関する指導案件なし	・SNS上での誹謗中傷が1件、情報モラル違反によるトラブルが1件あった。	B	・スマホ等のルールやマナーの徹底をより強化していく。 ・SNSを通じた人間関係の問題

			<ul style="list-style-type: none"> ・体罰アンケートを行い、体罰の指導案件はなかった。 		<p>点や、SNS 上でのいじめと思われることが生じたときの対処方法について LHR や講演、相談室だより等で発信する機会を作った方がよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の安全対策を行い事故の起きない取組を進める。 ・防災意識の高揚が図れるよう防災訓練の内容を検討する必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・安全対策がしっかりできていると答える保護者 60%以上※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・(全体:B)安全対策ができていると答えた保護者 53.8% ・防災訓練を2回行った。 		<ul style="list-style-type: none"> ・事故件数は例年並みだったが、外部から本校生徒の交通マナーについての通報が複数あった。より一層、交通安全意識の啓発に努めたい。 ・運搬法やエピペンの使用法など、身近に起こりうる救護活動を取り扱うことができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故件数 前年比減 ・AED講習会等の実施 ・ニーズに即した予算の執行 	<ul style="list-style-type: none"> ・(生徒:A)交通事故件数は4件であった。(すべて自転車)前年度4件 ・(保健:A)応急手当講習会や熱中症予防講座を実施し、教職員および生徒の安全意識の高揚に努めた。 ・自己の健康管理に対する意識の高揚を図ることができた。 ・施設の点検を週1回以上実施し、ニーズに即した予算を適切に執行し学習環境を整備した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・限られた予算の中、計画的な整備が不可欠である。
キ	コンプライアンスの徹底と学校における働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の不祥事なし ・監査における指摘事項なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議後に定期的にコンプライアンス研修を実施し、職員の意識の啓発を図った。 ・監査における指摘事項は無かった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を踏まえた研修を実施し、不祥事防止に向けての心構えや適切な行動について職員全体で考えることができた。また、学期末にテーマを決めグループワークも行った。話し合いをすることで職員間の円滑な人間関係作りにもつながった。 ・今後も適正な事務処理を継続する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間の減少 ・夏季休暇取得率 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・月 45 時間を超える回数が 6 回以上の教員 24 人と昨年度に比べ減少した。 ・定時退勤日や一日の終わりの時間を決めることで少しずつであるが減少に向かっている。 ・夏期休暇の取得率は 100%で達成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の勤務時間管理システムの入力により各自の勤務の状況を把握し、改善につなげていきたい。 ・年末に業務改善アンケートを全職員対象に行い、組織・業務の改善を図る観点から洗い出しを行い、具体的な提案に対し各担当・分掌ごとに検討をする予定である。 ・限られた時間の中で効率的に働き、しっかりと休めるような環境を整えたい。
--	--	---	--

(2) 令和 6 年度の取組目標・達成方法・成果目標

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア 基本的生活習慣の確立と心身の健康の保持・増進、豊かな人間性の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・ノーチャイム制による時間の自己管理 ・清掃の徹底による学習環境の整備 ・正しい制服の着こなしによる「醇美」の体現 ・爽やかな挨拶の徹底による校内の明るい雰囲気への継承 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守るように心がけている生徒 95%以上※ ・整備委員会による環境美化週間の実施 各学期 1 回 ・生徒による生活キャンペーンの実施 各学期 1 回 ・挨拶をしっかりとやるよう心掛けている生徒 90%以上※ 	教務課 保健課 生徒課 各学年
	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に対する意識の高揚 ・健康状態の把握と対応 ・悩みを抱える生徒の早期発見と相談体制の充実（スクールカウンセラー等の活用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりの発行 月 1 回 ・健康観察アプリの活用率 90%以上※ ・信頼できる先生がいる生徒 90%以上※ 	保健課 相談室 各学年
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の活性化、委員会活動や部活動の充実及び学校行事等への参加促進 ・読書活動の推進と読書習慣の確立（朝読書、ビブリオバトル、ポップ作成等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や学校行事に熱心に取り組んでいる生徒 95%以上※ ・図書年間貸出数（4～12 月集計） 2000 冊以上 	生徒課 教務課 図書課

		・文化講演会、演劇教室等の適切な実施	・生徒の満足度 90%以上※	
イ	確かな学力と幅広い教養の育成に資する学習指導	・学習内容の理解の質を高めることによる確かな学力の育成 ・主体的・対話的で深い学びの実践（ICT 機器（1人1台端末）、新聞、図書、DB等の有効活用） ・家庭学習習慣の確立	・理解を深める工夫をしている授業 90%以上※ ・主体的な活動や生徒同士の対話がある授業 90%以上※ ・家庭学習時間平日平均120分以上※ 休日平均200分以上※	教務課 研修課 情報室 各教科
		・授業改善のための校内研修の充実（授業参観、授業改善リーダー研修、授業アンケート等） ・「思考ツール」の導入と授業における活用	・校内研修の実施 年3回以上（「学びの基礎診断」の結果分析を含む） ・授業参観を年2回実施	
ウ	高い志と自律の精神に基づく自己実現を支援する進路指導	・初期指導の充実 ・進路啓発事業の充実（進路講演会、職業講座、大学訪問、小論文ガイダンス等）	・将来に対する明確な夢や目標を持っている3年生70%以上※ ・学校は適切に進路情報を提供していると思う生徒80%以上※	進路課 各学年 各教科
		・土曜講座等における講習の質の向上と参加の促進 ・学力層に応じた指導の工夫と実践	・進路実現に向けて努力している生徒 70%以上※	
エ	課題発見・解決力、論理的思考力・規範的判断力、国際感覚等を備えた人材を育成するための探究的な学び・協働的な学びの深化	・総合的な探究の時間や学校設定科目等の効果的な実施による探究的な学びと協働的な学びの深化	・授業が論理的思考力等を高めることにつながっていると答える生徒 90%以上※	教務課 研修課 各学年 各教科
		・英語学習講座、海外研修等の実施による国際的な学びの深化	・英語力や国際性が高まったと考える生徒の割合60%以上※	
オ	家庭や地域等との連携を基盤とした信頼される学校づくり	・PTA活動の活性化（紫苑祭、職業別講座等）	・入学させて良かったと答える保護者 80%以上※	総務課 教務課

	くり・開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の高等学校一日体験入学や公開授業日の実施 ・学校HP等、広報活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・一日体験入学の参加中学生 1000人以上 ・情報発信に熱心であると答える保護者 70%以上※ 	情報室
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事や奉仕活動、社会貢献活動等への参加促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や社会の課題に対する意識が高まった生徒 60%以上※ 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会制度の適切な運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の協議会開催 	
カ	安全・安心な学校につながる学習環境の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・人権意識の啓発といじめ(SNS関連含む)・体罰・セクハラの根絶 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関するアンケート年3回実施 ・体罰に関する指導案件なし ・SNS関連トラブル数 前年比減 	生徒課 相談室 総務課
		<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練や防災講話による防災意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全対策がしっかりできていると答える保護者 60%以上※ 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全意識の啓発と交通事故・事犯の撲滅 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故件数 前年比減 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の安全管理意識の高揚 ・校内施設・設備、備品・消耗品等の整備・点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・AED講習会等の実施 ・ニーズに即した予算の執行 	保健課 事務部
キ	コンプライアンスの徹底と学校における働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修の実施 ・適正な事務処理 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の不祥事なし ・監査における指摘事項なし 	管理職 事務部 全職員
		<ul style="list-style-type: none"> ・業務の精選と効率化 ・休暇取得の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間の減少 ・夏季休暇取得率 100% 	

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目「海外研修」「STEM for SDGs」におけるグローバル人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」の課題探求チーム(2年生)とともに外部のコンテストに応募した。それぞれ異なるコンテストの仕様に合わせて自分たちの研究を改めて言語化する作業を通じ、各チームの研

	<p>・グローバルに展開するNPO法人、地元の企業、大学教員、文部科学省職員など、多様なバックグラウンドを持つ外部人材を「総合的な探究の時間」の授業支援講師として迎えた。</p> <p>・「総合的な探究の時間」のカリキュラムの充実</p>	<p>究の視座が明確になった。</p> <p>・1年生に対しては10人の講師を迎え、全チームが直接指導を受ける場を9月と1月に設けることで、課題探究における生徒の思考過程にまで踏み込んだアドバイスを受けることが可能となった。また、アカデミックスキル入門（9月）や県政出前講座による統計学入門（11月）を実施し、問いの立て方や効果的なアンケート調査の実施方法など、課題探究に必要な基本的なスキルを身に着ける機会を充実させた。</p> <p>・2年生に対しては、校内で選抜したチームによるコンテスト形式のビジネスプレゼン大会（11月）を行い、5人の外部支援講師が審査員を務めていただき、試作品（プロトコル）を含めたビジネスプランの構想についての評価を得た。さらに、2年生が英語によるポスターセッションを全チームが行う際（1月）には、近隣のALTに審査員を依頼し、即時的なやりとりを含むセッションの場の充実を図った。</p> <p>・WWL事業カリキュラム開発拠点校指定期間中に開発した「総合的な探究の時間」のシラバスを改善し、コロナ禍を経てより対話的な学習を充実させた。</p> <p>・2年間で体系的に課題に取り組み、答えのない社会課題に対し、複数の視点による課題解決のアイデアの提示（プロポーザル）を模索し、持続可能な着地点としてソーシャルビジネスによる展開を目指すカリキュラムが確立した。</p> <p>・課題である教科横断的な学びについては、次年度思考ツールを用いた探究活動の展開に関する校内研修を行い、各教科の授業改善リーダーを中心に取り組みを</p>
--	---	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生全員を対象者とし、海外の講師と生徒がマンツーマンで、オンラインで繋がり、スピーキングをトレーニングした。 ・TOEIC教材を活用した「英語速読・聴解の極意」講座の実施 	<p>広げていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽やスポーツなど自分の趣味を話題の糸口として、講師からの質問に答えるうちに、自由に会話を発展させていく過程を体験した。 <p>事後のアンケートでは、言いたいことが言えた場合も、言えなかった場合も、どちらも生徒はモチベーションを刺激されており、非常に満足度が高いものであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインスピーキングのトレーニングの効果が、即時的なやりとりの力を培う上で大変高いことがわかり、今後は自己負担を増やし学年を広げて実施していく。 ・2日間実施した。1、2年生16名の生徒が参加し、TOEICインストラクターによる講義・演習を受講した。 ・様々な素材文の速読にテンポよくアプローチするための基本的な表現や、聴いた英語を整理して理解するための効果的なメモの方法などを学び、今後の英語学習を進める上でのヒントをつかみ、モチベーションを一層高めた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目「海外研修」「STEM for SDGs」におけるグローバル人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目「海外研修」は、11人の生徒が履修した。年間を通じた授業で課題探究を進め、協力隊員OBから講話を聴いたり、8月のベトナム現地研修では、JICAホーチミン事務所、VIETSTAR社、Binon Cacao Park、Duc Tri高校訪問を実施した。 ・学校設定科目「STEAM for SDGs」は、14人の生徒が履修した。グループ毎に担当教員が付いたこともあり、主体的な取組が見られた。地元企業のものづくりの現場を訪問したり、テクノロジーが企業に結び付くスタートアップ事業施設を見学するなど、多様な校外研修を実施した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアGlobal Expedition Program 	<p>をまとめて練習をするという経験に苦しみながらも、講義で学んだ内容を生かし、瞬発力を感じさせる発表が多く見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回の探究リーダー養成塾を通して学校の垣根を越えた教員、生徒間の交流も図ることができた。 ・今年度からスタートした事業でイノベティブなグローバル人材を育成する本校において開発されてきた課題探究のカリキュラムの発展形として、春休みに実施した。オーストラリアクイーンズランド州ブリスベンでの様々な体験を通じ、ビジネスアイデアの気づきを得て、それを魅力的に伝えるための英語プレゼンテーション能力の基礎を養うプログラム。1年生22人、2年生8人の参加者は、事前研修で学んだことを生かして個人でテーマを決め、好奇心をもって探究を深め、大きく成長した。
--	---	--

5 教職員について

(1) 令和6年度異動状況

(単位：人)

職名 区分	本 務 職 員													臨時・会計年度任用職員							合 計				
	教 育 職 員								行 政 職 員					本 務 計	臨 時 教 諭	外 国 語 指 導 講 師	非 常 勤 講 師	臨 時 事 務 職 員	非 常 勤 勞 務 職 員	非 常 勤 嘱 託 員		臨 時 等 計			
	校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	講 師	養 護 教 諭	実 習 助 手	小 計	事 務 長	主 査	主 任	主 事	技 能 員										小 計		
転 出			1	5				6	1	1				2	8									8	
退 職				2				2							2		1				1			2	4
再任用 (退職)				4				4							4									4	
転 入			1	5				6	1		1			2	8									8	
新 任																1	1	1	1	1	1	1	6	6	
昇 任																									
再任用 (新任)				4				4							4									4	
差引増減			0	△2				△2	0	△1	1			0	△2	1	0	1	1	0	1	4	2		

(2) 現員数

(単位：人) (令和7年4月1日現在)

職名 区分	本 務 職 員													臨時・会計年度任用職員							合 計		
	教 育 職 員								行 政 職 員					本 務 計	臨 時 教 諭	外 国 語 指 導 講 師	非 常 勤 講 師	臨 時 事 務 職 員	非 常 勤 勞 務 職 員	非 常 勤 嘱 託 員		臨 時 等 計	
	校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	講 師	養 護 教 諭	実 習 助 手	小 計	事 務 長	主 査	主 任	主 事	技 能 員										小 計
男		1	1	33	1			36	1				1	2	38	1		3		2		6	44
女	1			13		1	1	16		1	1	2		4	20		1	3	1		1	6	26
計	1	1	1	46	1	1	1	52	1	1	1	2	1	6	58	1	1	6	1	2	1	12	70

(3) 健康管理について

ア 健康管理の取組

- (ア) 新型コロナウイルス等感染症拡大防止に対する対応
 - ・生徒と同様、感染症流行時にGoogle Classroomを用いた健康チェック
- (イ) 職員安全衛生委員会の開催（10回）
 - ・職員の生活習慣病の健診結果
 - ・職員の健康問題（VDT、健康講座）
 - ・職場環境（生活環境・安全等）
 - ・職場の環境改善に関するアンケート（全職員対象3回）
- (ウ) 健康診断の完全受診と要精密者の受診を徹底した。
- (エ) スクールカウンセラーによるストレスマネジメント講座の実施
- (オ) 養護教諭による職員健康相談の実施、特に超過勤務時間の多い職員の実態把握と健康管理医への受診に関する問診
- (カ) 健康管理医による講話と健康相談の実施
- (キ) ストレスチェック検査の実施、高ストレス状態の判定が出た教職員に対しては、医師との面談を早期に実施するように呼びかけている。

イ 健康診断の受診状況・結果

何らかの所見を有する教職員に対する再検査受診や要治療者に対する定期的検査の受診を依頼した。受診に際しては校務等の配慮を行った。

(4) 教職員の研修について

ア 学力向上対策
令和5年度

研修の目的	BYOD 生徒用情報端末を用いた効果的な学習指導
研修内容	<ul style="list-style-type: none">・BYOD 端末による授業展開に用いるツールに関する研修を実施した。・定期訪問では BYOD 端末を使用した研究授業が行われ、研究協議で意見交換をした。・英語の授業で BYOD 端末を用いたオンライン英会話を実践した。同一規格の学校の生徒用端末を用いていた昨年度までとは異なる運用について理解を深めた。・チーム研修で、年次研修者が、チャット GPT の成り立ちや活用に関するワークショップを企画し実施した。・校内相互授業参観月間において、BYOD 端末を用いた授業の設計について、教科の垣根を超え学び合った。・BYOD による学習指導を意識した各教科のシラバスを作成した。
成果	<ul style="list-style-type: none">・教室のWi-Fi環境が整い、情報端末の接続トラブルをフォローする業者の支援を受け、接続にストレスを感じず、情報端末の使用が保障されてきたことにより、授業での情報端末の活用を始める教員が増え、効果的な活用のアイデアなど、教員同士の自主的な情報交換・研修が進んだ。
課題	<ul style="list-style-type: none">・令和5年度では1年生においてClassiの導入を見合わせていたが、本校の教育活動に活用する意義についての共通理解が進み、令和6年度からは全学年

	での導入体制に戻る。サービス内容のうち、生徒が自主的に進める学習コンテンツ等をどう活用するかの理解を深め、学年部と協働し、効果的な活用を推進していく。
--	---

令和6年度

研修の目的	生徒の学びのメタ認知を進める「思考ツール」の活用
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・定期訪問に伴う校内研修で、愛知淑徳大学加藤智准教授より、「生徒が主体となる学びの実現へ向けて～思考ツールの活用を中心に」と題した研修会を実施した。 ・6月、11月 相互授業参観強化月間において、各教科の授業改善推進リーダーが「思考ツール」を活用した授業を実践した。 ・先進的に「思考ツール」を活用した授業を展開している、大分県立別府鶴見丘高校、長崎県諫早高校の視察を実施し、訪問した教員による報告研修を1月に行った。 ・数学Ⅱの授業（1年生）化学の授業（2年生）において、愛知淑徳大学加藤智准教授による助言・指導と、教科による研究協議を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の機会を通じて「思考ツール」の基本的概念についての知見を得ることで、教員集団としてのスキルアップにつながった。まずは、授業改善リーダーを中心に、授業内でできそうな場面で思考ツールを使ってみるという今年度の段階的目標は達成できた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科の実践からヒントを得る場合は多く、今後も授業での実践についての研究を深めていくことが必要である。各教員の優れた実践の様子を、手間なく共有し、気軽に意見交換できる仕組みの構築についても検討していきたい。

イ 校内研修

令和5年度

研修の目的	個別最適な学びの実現に必要な特別支援の理解と実践
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスマネジメント研修、支援の必要な生徒の実態についての職員研修、通級によるチームティーチング研修を実施した。 ・学校支援心理アドバイザーによる個別生徒観察に基づく研修を実施した。 ・支援の必要な生徒の事例検討による研修、スクールカウンセラーによる特別支援教育についての職員研修を実施した。 ・特別支援教育コーディネーターによる伝達講習を実施した。 ・年次研修において特別支援学校における教育活動に関する講座を年次研修者が企画して実施した。 ・レジリエンス研修を実施し、生徒ともに聴講し理解を深めた。 ・支援の必要な生徒についての通級担当講師による研修を実施し、修学旅行を安全に行うために必要な支援を学んだ。 ・非常勤講師による通級指導において、チームティーチングによる指導を実

	<p>践し、専門的な指導技術に触れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前の中学校訪問により、発達障害の生徒について中学校から引き継がれた情報を、全職員で早い段階（4月）で共有した。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度に入学した、特別な支援を必要とする生徒に対して、特別支援教育コーディネーターと学年部を中心に複数の教員で対応する体制を継続して支援してきた。また、研修により、全職員が発達障害について知ることができた。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は特別な支援を必要とする生徒が複数在学したので、さらに職員間の連携により、支援の方法を個別に変える必要性が生じている。 ・スクールカウンセラーと協力して生徒の支援に当たることに加え、様々な課題を抱える生徒に対し、全職員の支援力の底上げが必要である。今後も発達障害の疑いのある生徒の入学が増える可能性が高く、合格後の早めの情報収集を行うとともに、適切な情報共有を行う場のひとつとして研修を継続していく。

令和6年度

研修の目的	個別最適な学びの実現に必要な特別支援の理解と実践
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスマネジメント研修（1学年部）、支援の必要な生徒の実態についての職員研修（教育相談室）を実施した。 ・支援の必要な生徒の事例検討による研修を実施した。 ・スクールカウンセラーによる、支援が必要な生徒とその保護者対応についての職員研修、特別支援教育コーディネーターによる伝達講習を実施した。 ・特別支援学校における教育活動に関する講座を年次研修者が企画し、チーム研修として実施した。 ・レジリエンス研修を実施し、生徒ともに聴講し理解を深めた。 ・学校支援心理アドバイザーによる、支援の必要な生徒の事例検討を通じた研修を実施した。 ・入学前の中学校訪問により、発達障害の生徒について中学校から引き継がれた情報を、全職員で早い段階（4月）で共有した。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする生徒に対して、特別支援教育コーディネーターと学年部を中心に複数の教員で対応する体制を継続して支援してきた。また、研修により、全職員が発達障害と保護者対応について知ることができた。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も特別な支援の必要な生徒が入学してくる可能性は高く、全職員が発達障害についての知識や支援の方法を知る必要性は、一層高くなると考えている。3年間の校内研修期間は終了するが、現在行われている事例検討などを引き続きタイムリーに実施することを通じ、生徒の成長につながる支援を継続していく。

ウ 教職員セクシャルハラスメント防止に関する研修会

令和5年度

目 的	保護者や地域の信頼を失墜させる不祥事を起こさない。
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の不祥事根絶取組計画を立案し、教職員に示した。 ・心身ともに健全な職場環境を目指すため、職員会議における不祥事根絶研修を毎回行った。 ・生徒指導提要の改訂の趣旨の資料を読み、個人での行動を振り返り、その後グループディスカッションを行うなどし、情報共有・意見交換を行った。 ・セクハラ相談員・相談体制を生徒・保護者へ周知した。 ・生徒との携帯電話等での連絡及びメール・SNS の使用のルールを作成し、周知徹底した。 ・アンケート実施時の個人情報の取扱いについてルールを作成し、共有した。
成 果	・教員と生徒が適切な距離感を保ち、信頼関係が構築できるHR運営・部活動運営を目指すことを申し合わせた。
課 題	・教員の負担感困り感等の情報を確実に拾い上げる体制づくりが課題である。

令和6年度

目 的	保護者や地域の信頼を失墜させる不祥事を起こさない。
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の不祥事根絶取組計画を立案し、教職員に示した。 ・心身ともに健全な職場環境を目指すため、職員会議における不祥事根絶研修を毎回行った。 ・セクハラ相談員・相談体制を生徒・保護者へ周知した。 ・生徒との携帯電話等での連絡及びメール・SNS の使用のルールを作成し、周知徹底した。 ・具体的な事例を用いたチェックリスト等を用いて「自分が日常的に行っていることはコンプライアンス違反となるのか」を個人で考えさせ、自分の行動を振り返る機会を与え、第三者の目線を持たせるような取り組みを行った。
成 果	・研修を通して職員全員が同じ意識を持って正しい行動ができるようコンプライアンス意識が浸透した。
課 題	・管理職による不祥事根絶に関する情報提供と研修の機会をさらに充実していきたい。

6 防災対策について

令和5年度

目 標	防災意識の高揚を図り、地震等の際の被害を最小限に食い止める。
取組内容	・防災計画に従い、年2回の防災訓練を実施した。
成 果	・三島市、本校を避難所とする地域自主防災組織と連携し、備品の整備配備計画を策定し、計画通り実施した。
課 題	・地域、小・中学校との合同の防災訓練が実施できると効果的である。 ・地震についての避難訓練は放課後部活動中、HR中、下校途中など、様々な場面を想定して実施する必要がある。

令和6年度

目 標	防災意識の高揚を図り、地震等の際の被害を最小限に食い止める。
取組内容	・防災計画に従い、年2回の防災訓練を実施した。
成 果	・三島市、本校を避難所とする地域自主防災組織と連携し、備品の整備配備計画を策定し、計画通り実施した。 ・地震発生時に自分の身の安全を守ることができる判断力と行動力を養うことができた。
課 題	・地域で行われる避難訓練の参加率が低い。高校生が地域防災の担い手としての役割を果たせるよう、校内や地域で実施される避難訓練や防災訓練等に積極的に参加し、地震等災害時に地域を支える役割を担う自覚を持てるよう意識付けを図りたい。

7 学校開放について

地域住民の社会教育活動、スポーツ活動に対し、学校活動に支障の無い範囲で施設を開放している。

令和5年度

施 設 名	利用種目	利用 日数	利用者数 (延)	利用者負担金	摘 要
第1体育館	バスケット	66	920	45,117	
	バレーボール	15	324	7,801	
	小計	81	1,244	52,918	
武道場	和太鼓	64	689	13,406	
	小計	64	689	13,406	
合 計		145	1,933	66,324	

※ 利用者負担金は、電気料金

令和6年度

(令和7年3月31日現在)

施設名	利用種目	利用日数	利用者数 (延)	利用者負担金	摘要
第1体育館	バスケット	98	2,118	91,758	
	バレーボール	4	333	6,065	
	太極拳	3	61	1,351	
	小計	105	2,512	99,174	
第2体育館	和太鼓	28	265	7,899	
武道場	和太鼓	28	358	10,645	
	空手	25	100	3,787	
	小計	53	458	14,432	
合計		186	3,235	121,505	

※ 利用者負担金は、電気料金

事務執行の根拠法令調

項目	根拠法令
1 学校教育に関すること	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第50条、第51条、 第52条、第56条、第57条、第60条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立学校管理規則 静岡県立高等学校学則 高等学校学習指導要領 理科教育振興法（第11条） 理科教育振興法施行令
2 学校の管理・運営に関すること	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立教育委員会管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 静岡県立学校の授業料等の徴収に関する条例 静岡県立学校授業料等徴収規則 静岡県手数料徴収条例 静岡県高等学校等教育資金及び高等学校等奨学金貸与規則 高等学校遠距離通学費補助金交付要綱 静岡県情報公開条例施行規則 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第17条） 社会教育法（第43条、第45条、第47条） 高等学校等就学支援金の支給に関する法律 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行令 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行規則 静岡県立高等学校等就学支援金事務処理要領 高等学校等修学支援事業補助金（奨学のための給付金）交付要綱

□□□□□ □

学校施設の概要

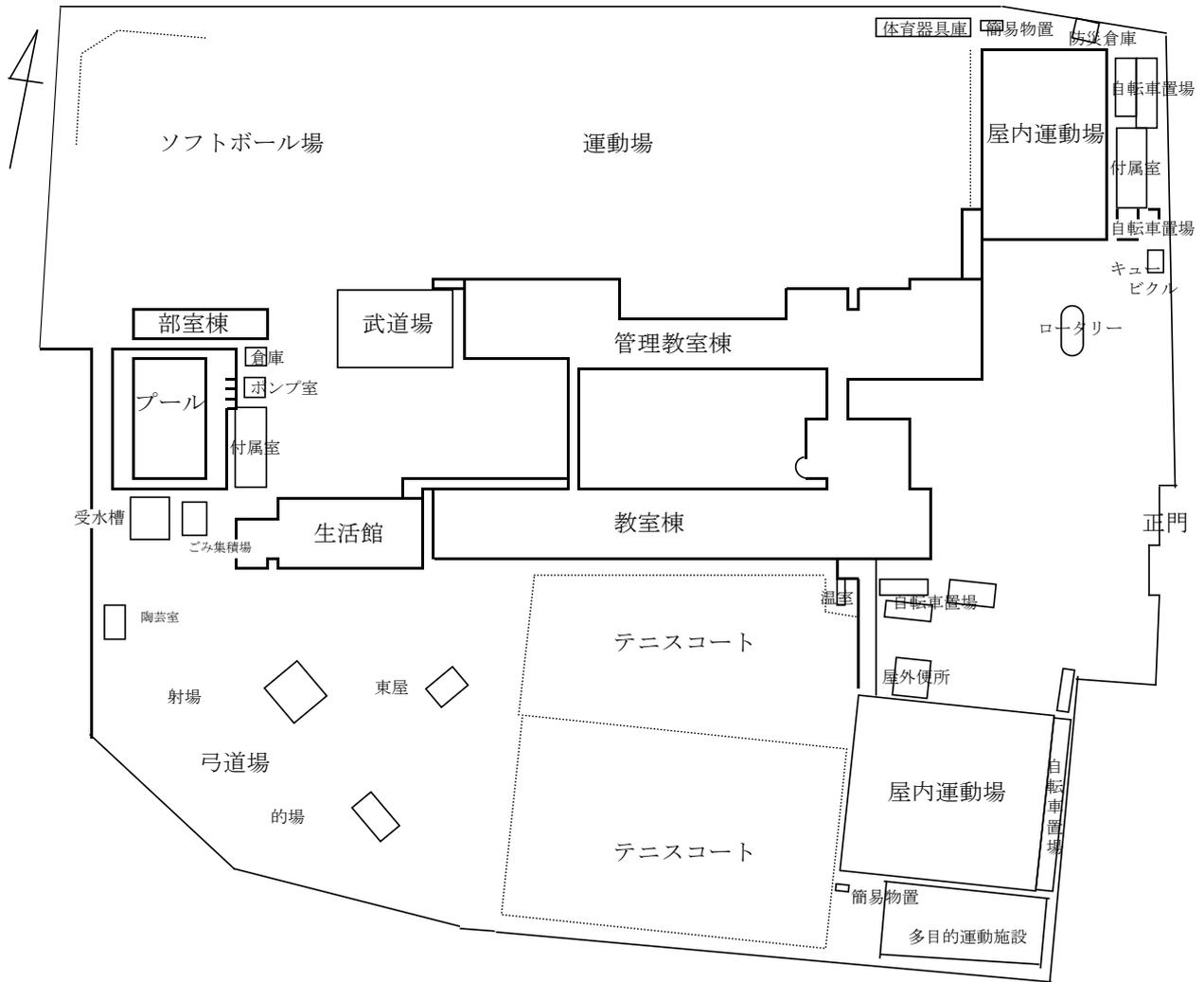
1 面積及び所有区分

(令和7年3月31日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学校敷地	44,173.70		44,173.70				
内 訳	校舎敷地	29,554.43		29,554.43			
	運動場敷地	14,619.27		14,619.27			
	その 他 敷 地						
実 習 地							
内 訳	田						
	畑						
	茶 園						
	果樹園						
演 習 林							
校 舎	<u>建 3,176.52</u> 延 9,836.81	<u>建 3,176.52</u> 延 9,836.81					
体 育 館	<u>建 2,370.00</u> 延 2,515.35	<u>建 2,370.00</u> 延 2,515.35					
武 道 場	<u>建 405.00</u> 延 405.00	<u>建 405.00</u> 延 405.00					
その他の建物	<u>建 1,123.61</u> 延 1,226.94	<u>建 1,123.61</u> 延 1,226.94					
寄 宿 舎							
生 活 館	<u>建 493.35</u> 延 898.78				<u>建 493.35</u> 延 898.78		
プ ー ル	846.90	846.90					25m×16m 8コース
職員住宅	戸	戸					

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等 (法面・演習林等を除く)

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	44,173.70 m ²	9,836.81 m ²	14,619.27 m ²
県平均	45,574.48 m ²	9,782.41 m ²	22,506.84 m ²

在 籍 生 徒 調

(令和7年3月31日現在)

学年	学科別		全日制普通科			
	区分		定 員	男 子	女 子	計
1年	入 学 者		280	110	177	287
		増加				
		減少				
	現 在			110	177	287
2年	入 学 者		280	127	160	287
		増加				
		減少			3	3
	2年時当初			127	157	284
		増加				
		減少			3	3
現 在			127	154	281	
3年	入 学 者		280	125	162	287
		増加		(1)	1	1(1)
		減少			2	2
	2年時当初			126	161	287
		増加				
		減少		2	2	4
	3年時当初			124	159	283
		増加				
減少						
現 在			124	159	283	
合 計				361	490	851

入学志願者及び入学者数調

(全日制)

区 分		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
学 科 別		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
生徒定員(A)		280	280	280	280	280
募集者数(B)		280	280	280	280	280
志願者数	男	126	162	141	147	113
	女	197	200	176	208	205
	計(C)	323	362	317	355	318
受検者数	男	118	152	136	144	113
	女	194	199	172	208	205
	計(D)	312	351	308	352	318
合格者数	男	104	125	127	110	101
	女	183	162	160	177	193
	計(E)	287	287	287	287	294
志願倍率(C)/(B)		1.15	1.29	1.13	1.27	1.14
受検倍率(D)/(B)		1.11	1.25	1.10	1.26	1.14
入学者数	男	104	125	127	110	101
	女	183	162	160	177	193
	計(F)	287	287	287	287	294
充足率(F)/(A)		1.03	1.03	1.03	1.03	1.05

卒業生の動向調

1 進路状況

学 科 別		全日制普通科			
年 度		R4年度	R5年度	R6年度	
卒 業 生 徒 数		284	278	283	
内 訳	(進学志願者)		284	276	281
	進 学 者	大学・短大	277	259	261
		専修・各種学校等	6	15	15
		小 計	283	274	276
	就 職 者		0	2	1
	自 営 者		0	0	0
	進学準備者		1	2	5
	そ の 他		0	0	1
合 計		284	278	283	

2 求人状況 (全日制のみ)

区 分	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
就 職 希 望 者 数	0	0	2	1
求 人 数	42	51	59	80
求 人 倍 率	0.0	0.0	29.5	80.0

3 資格取得状況

(令和6年度)

なし

□□□□□ □

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地

(令和7年3月31日現在) (単位:人)

市町名	三島市	沼津市	御殿場市	長泉町	裾野市	伊東市	清水町	函南町	富士市	その他	合計
生徒数	170	223	79	104	65	46	53	26	31	54	851
構成比%	20.0%	26.2%	9.3%	12.2%	7.6%	5.4%	6.2%	3.1%	3.6%	6.4%	100%

(2) 通学方法

(令和7年3月31日現在) (単位:人)

区分	徒歩	自転車	鉄道	バス	その他	合計
生徒数	60	291	458	33	9	851
構成比%	7.1%	34.2%	53.8%	3.9%	1.0%	100%

2 部(クラブ)の加入状況

(令和7年3月31日現在) (単位:人)

区分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		14	14	/	28
男子	1年	83	27	0	110
	2年	92	35	0	127
	3年	83	41	0	124
	計(A)	258	103	0	361
	構成比	71.5%	28.5%	0.0%	100%
女子	1年	70	107	0	177
	2年	87	67	0	154
	3年	77	76	6	159
	計(B)	234	250	6	490
	構成比	47.8%	51.0%	1.2%	100%
合計(A+B)		492	353	6	851
構成比		57.8%	41.5%	0.7%	100%

□□□□□ □

(全日制・定時制・通信制・単位制の全日制)

授業料収納状況調

(令和5年度)

期別	月別	調定の状況						収納の状況				異動者等の状況		
		1年		2年		3年		計		納期内収納額			納期後 収納額	収入 未済額
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	円	%			
一期	7	人 125	円 3,712,500	人 117	円 3,474,900	人 91	円 2,702,700	人 333	円 9,890,100	円 9,890,100	%	円 0	円 0	A. 期首収納権利発生額 =9,890,100円 (333人×9,900円×3月) B. 収納権利増減(▲)額=59,400円 9月(1人×9,900円×3月)就学支援金認定 10月(1人×9,900円×3月)就学支援金認定 C. 収納必要額A(±)B =9,830,700円
	9	△1	△29,700				△1	△29,700	△29,700					
	10	△1	△29,700				△1	△29,700	△29,700					
	計	123	3,653,100	117	3,474,900	91	2,702,700	331	9,830,700	9,830,700	100		0	
二期	9			1	19,800			1	19,800				19,800	A. 期首収納権利発生額 =16,899,300円 (341人×9,900円×5月) (1人×9,900円×2月)8月転学 B. 収納権利増減(▲)額=188,100円 11月(3人×9,900円×5月)就学支援金認定 11月(2人×9,900円×2月)就学支援金認定 C. 収納必要額A(±)B =16,711,200円
	10	127	6,286,500	118	5,841,000	96	4,752,000	341	16,879,500	16,602,300			297,000	
	11	△3	△148,500			△2	△39,600	△5	△188,100	△138,600		247,500	△49,500	
	計	124	6,138,000	119	5,860,800	94	4,712,400	337	16,711,200	16,463,700	98.52	247,500	0	
三期	1	125	4,950,000	117	4,633,200	94	3,722,400	336	13,305,600	13,266,000			39,600	A. 期首収納権利発生額 =13,305,600円 (336人×9,900円×4月) B. 収納権利増減(▲)額=0円 C. 収納必要額A(±)B =13,305,600円
	2										39,600	0		
	計	125	4,950,000	117	4,633,200	94	3,722,400	336	13,305,600	13,266,000	99.70	39,600	0	
合計		372	14,741,100	353	13,968,900	279	11,137,500	1,004	39,847,500	39,560,400	99.28	287,100	0	D. 収納必要額 =39,847,500円

□□□□□ □

(全日制・定時制・通信制・単位制の全日制)

授業料収納状況調

(令和6年度)

期別	月別	調定の状況								収納の状況				異動者等の状況
		1年		2年		3年		計		納期内収納額		納期後 収納額	収入 未済額	
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	円	%			
一期	7	人 103	円 3,059,100	人 125	円 3,712,500	人 116	円 3,445,200	人 344	円 10,216,800	円 10,157,400	%	円 0	円 59,400	A. 期首収納権利発生額 =10,216,800円 (344人×9,900円×3月) B. 収納権利増減(▲)額=0円 C. 収納必要額A(±)B =10,216,800円
	8											円 59,400	円 0	
	計	103	3,059,100	125	3,712,500	116	3,445,200	344	10,216,800	10,157,400	99.42	59,400	0	
二期	10	107	5,296,500	118	5,841,000	123	6,088,500	348	17,226,000	16,929,000			297,000	A. 期首収納権利発生額 =17,226,000円 (348人×9,900円×5月) B. 収納権利増減(▲)額=0円 11月(1人×9,900円×5月)就学支援金 認定 11月(1人×9,900円×1月)10/31付転 学 C. 収納必要額A(±)B =17,166,600円
	11			△2	△59,400			△2	△59,400	△59,400		297,000	0	
	計	107	5,296,500	116	5,781,600	123	6,088,500	346	17,166,600	16,869,600	98.27	297,000	0	
三期	1	107	4,237,200	116	4,593,600	123	4,870,800	346	13,701,600	13,464,000			237,600	A. 期首収納権利発生額 =13,701,600円 (346人×9,900円×4月) B. 収納権利増減(▲)額=0円 C. 収納必要額A(±)B =13,701,600円
	2											237,600	0	
	計	107	4,237,200	116	4,593,600	123	4,870,800	346	13,701,600	13,464,000	98.27	237,600	0	
合計		317	12,592,800	357	14,087,700	362	14,404,500	1036	41,085,000	40,491,000	98.55	594,000	0	D. 収納必要額 =41,085,000円

□□□□□ □

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区 分	5 年 度	令 和 7 年 3 月 31 日 現 在
	件 数	件 数
全 日 制 高 等 学 校 入 学 検 定 料	356 件	324 件

□□□□□ □

保 管 現 金 有 高 調

(令和6年度)

(令和7年3月31日現在)

現金保管者	区 分	金 額 円
該当なし		
計		0

□□□□□ □

預 金 調

(令和7年3月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高円	摘要
三島信用金庫 三島北支店	無利息型普通預金	1257276	静岡県立三島北高等学校 資金前渡者 松下 明子	5,000	給料振替用、 継続的資金前 渡(交際費、使 用料)用口座
スルガ銀行 三島セントラ ル支店	無利息型普通預金	548226	自振口 静岡県立三 島北高等学校 資金 前渡者 松下 明子	0	公共料金等自 動振替用口座
残 高 合 計				5,000	

□□□□ □

郵 券 等 受 払 調

(令和7年3月31日現在)

(単位：枚、円)

区 分	種 類	令和 5 年度						令和 6 年度						摘 要		
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出			差引現在高	
		枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額		枚数	金 額
郵 券	84円券	0	0	12	1,008	12	1,008	0	0	2	168	2	168	0	0	
	レターパックプラス	0	0	0	0	0	0	0	0	1	600	1	600	0	0	
計		/	0	/	1,008	/	1,008	/	0	/	768	/	768	/	0	
タクシーチケット	富士急伊豆 タクシー	30	/	0	/	30	/	0	/	0	/	0	/	0	/	緊急時生徒送迎 用等
計		30	/	0	/	30	/	0	/	0	/	0	/	0	/	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額(円)		
					令和4年度	令和5年度	左のうち、4年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	/	7,209,070	/
	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費		3,319,745	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		1,564,574	
計					12,318,350	12,093,389	0
(14) 工事請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	/	4,309,800	/
計					0	4,309,800	0
(16) 公有財産購入費					/	0	/
計					0	0	0
(17) 備品購入費	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	/	620,400	/
計					715,000	620,400	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	/	61,057,300	/
計					66,102,700	61,057,300	0
(21) 補償、補填及び賠償金					/	0	/
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年3月31日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						左のうち、5年度 からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	8,223,270	0
	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	1,425,762	0
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	426,052	0
計					10,075,084	0
(14) 工事請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	824,450	0
計					824,450	0
(16) 公有財産 購入費					0	0
計					0	0
(17) 備品購入費					0	0
計					0	0
(18) 負担金、補助 及び交付金	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	60,283,200	0
計					60,283,200	0
(21) 補償、補填及 び賠償金					0	0
計					0	0

委託料に関する調

(令和5年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 消防用設備等保守点検業務	伊豆防災機器(株)	円 8,361,804	円 8,361,804	円 0	円 8,361,804	一般	5. 4. 1 ～ 6. 3. 31	5. 10. 31 6. 4. 30 小計	円 5,410,812 2,950,992 8,361,804	三島田方地区10校の消防用設備等の機能維持	伊豆総合土肥分校・伊豆総合・韮山・伊豆中央・田方農業・三島南・三島長陵・東部特別支援・伊豆の国特別支援
2	警備業務	セコム(株)	16,480,068	14,256,000	1,322,750	15,578,750	一般	1. 10. 1 ～ 6. 9. 30	5. 5. 31 5. 6. 30 5. 7. 31 5. 8. 31 5. 9. 29 5. 10. 31 5. 11. 30 5. 12. 27 6. 1. 31 6. 2. 29 6. 3. 29 6. 4. 30 小計	274,175 274,175 274,175 274,175 274,175 274,175 274,175 274,175 274,175 274,175 274,175 274,175 3,290,100	三島田方地区11校の機械警備	31長期伊豆総合・韮山・伊豆中央・田方農業・三島南・三島長陵・東部特別支援・沼津特別支援伊豆田方分校・伊豆の国特別支援
3	GHPエアコン点検業務	静岡ガス(株)営業本部	162,800	162,800	0	162,800	随契	5. 9. 29 ～ 5. 12. 28	5. 11. 20 小計	162,800 162,800	GHPエアコン点検	随契1号(少額)
4	産業廃棄物収集・運搬及び処分業務	セキトランスシステム(株)	99,880	99,000	0	99,000	随契	6. 1. 26 ～ 6. 3. 29	6. 4. 12 小計	99,000 99,000	産業廃棄物の収集・運搬及び処分	随契1号(少額)
5	産業廃棄物収集・運搬及び処分業務	(株)ホクセイ	44,187	44,187	0	44,187	随契	5. 9. 15 ～ 6. 2. 9	5. 11. 13 小計	44,187 44,187	蛍光灯の収集・運搬及び処分	随契1号(少額)
6	廃薬品収集・運搬及び処分業務	ジャパンウェイスト(株)	96,250	96,250	0	96,250	随契	5. 11. 17 ～ 6. 3. 29	6. 2. 7 小計	96,250 96,250	産業廃棄物の収集・運搬及び処分	随契1号(少額)
7	産業廃棄物収集・運搬及び処分業務	(株)ホクセイ	39,248	39,248	0	39,248	随契	5. 11. 16 ～ 6. 3. 22	6. 1. 18 小計	39,248 39,248	乾電池の収集・運搬及び処分	随契1号(少額)
事務関係 計		7件		23,059,289	1,322,750	24,382,039				12,093,389		
工事関係 計		0件										
合計		7件		23,059,289	1,322,750	24,382,039				12,093,389		

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
参考1	可燃物収集運搬処分業務	(株)東部処理		円 収集運搬料 @2,420/回 処分料 @13.2/kg	円 0	円 収集運搬料 @2,420/回 処分料 @13.2/kg		5. 4. 5 ～ 6. 3. 29			可燃物収集、運搬、処分	三島南高校
参考2	自家用電気工作物保安管理業務	一般財団法人関東電気保安協会		1,131,240	0	1,131,240		5. 4. 1 ～ 6. 3. 31			自家用電気工作物保安管理	田方農業高校
参考3	建築基準法第12条に基づく定期点検業務	(有)コーセイ産業		1,550,560	0	1,550,560		5. 7. 31 ～ 5. 11. 30			建築物、建築設備等の定期点検	伊豆中央高校
参考4	プール浄化装置保守点検業務	東伸興産(株)		194,700	0	194,700		5. 4. 14 ～ 5. 10. 10			プールの浄化装置の保守点検	伊豆総合高校
	計	4件			0							

委託料に関する調

(令和6年度)
(令和7年3月31日)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 消防用設備等保守点検業務	伊豆防災機器㈱	円 8,156,104	円 8,156,104	円 0	円 8,156,104	一般	6. 4. 1 ～ 7. 3. 31	6. 10. 31 小計	円 5,413,562 5,413,562	三島田方地区10校の消防用設備等の機能維持	伊豆総合土肥分校・伊豆総合・葦山・伊豆中央・田方農業・三島南・三島長陵・東部特別支援・伊豆の国特別支援
2	警備業務	セコム㈱	16,480,068	14,256,000	1,322,750	15,578,750	一般	1. 10. 1 ～ 6. 9. 30	6. 5. 31 6. 6. 28 6. 7. 31 6. 8. 30 6. 9. 30 6. 10. 31 小計	274,175 274,175 274,175 274,175 274,175 274,175 1,645,050	三島田方地区11校の機械警備	31長期 伊豆総合・葦山・伊豆中央・田方農業・三島南・三島長陵・東部特別支援・沼津特別支援伊豆田方分校・伊豆の国特別支援
3	警備業務	セコム㈱	26,315,058	19,965,000		19,965,000	一般	6. 10. 1 ～ 11. 9. 30	6. 11. 29 6. 12. 26 7. 1. 31 7. 2. 28 7. 3. 31 小計	332,750 332,750 332,750 332,750 332,750 1,663,750	三島田方地区11校の機械警備	6長期 伊豆総合・葦山・伊豆中央・田方農業・三島南・三島長陵・東部特別支援・沼津特別支援伊豆田方分校・伊豆の国特別支援
4	GHPエアコン点検業務	静岡ガス・エンジニアリング㈱	162,800	162,800	0	162,800	随契	6. 5. 13 ～ 6. 7. 13	6. 7. 12 小計	162,800 162,800	GHPエアコン点検	随契 1号 (少額)
5	廃薬品収集・運搬及び処分業務	ジャパンウェイスト(株)	96,250	96,250	0	96,250	随契	6. 7. 8 ～ 6. 12. 27	6. 9. 25 小計	96,250 96,250	産業廃棄物の収集・運搬及び処分	随契 1号 (少額)
6	廃薬品収集・運搬及び処分業務	日本産業廃棄物処理㈱	98,187	98,172	0	98,172	随契	6. 11. 25 ～ 7. 3. 28	7. 3. 4 小計	98,172 98,172	産業廃棄物の収集・運搬及び処分	随契 1号 (少額)
7	建築基準法第12条に基づく外壁全面打診調査業務	(合)石橋剛設計事務所	996,875	995,500	0	995,500	随契	6. 11. 1 ～ 7. 2. 28	7. 3. 24 小計	995,500 995,500	外壁全面打診調査業務	随契 1号 (少額)
事務関係 計		7件		43,729,826	1,322,750	45,052,576				10,075,084		
工事関係 計		0件										
合計		7件		43,729,826	1,322,750	45,052,576				10,075,084		

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
参考1	可燃物収集運搬処分業務	(株)東部処理		円 収集運搬料 @2,585/回 処分料 @13.2/kg	円 0	円 収集運搬料 @2,585/回 処分料 @13.2/kg		6.4.3 ～ 7.3.31			可燃物収集、運搬、処分	三島南高校
参考2	自家用電気工作物保安管理業務	野木電機管理事務所		861,960	130,460	992,420		6.4.1 ～ 7.3.31			自家用電気工作物保安管理	三島長陵高校
参考3	建築基準法第12条に基づく定期点検業務	(有)コーセイ産業		2,378,640	0	2,378,640		6.8.1 ～ 6.11.29			建築物、建築設備等の定期点検	伊豆中央高校
参考4	プール浄化装置保守点検業務	東伸興産(株)		194,700	0	194,700		6.4.8 ～ 6.10.18			プールの浄化装置の保守点検	伊豆総合高校
	計	4件										

□□□□□□

負 担 金 支 出 調

(令和5年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国高等学校長協会第75回総会・研究協議会参加費	全国高等学校長協会会長	全国高等学校長協会総会・研究協議会案内	高等学校教育の相互連携を深め教育推進を図る	円 2,000	5.5.2
2	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(転学生徒4月分1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	9,900	5.5.15
3	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会参加費	東海四県高等学校長連絡協議会会長	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会案内	高等学校教育の相互連携を深め教育推進を図る	2,000	5.7.6
4	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(第1期分 519名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	15,414,300	5.7.31
5	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(週及認定4~6月分1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	29,700	5.9.25
6	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(転学生徒7月分1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	9,900	5.10.11
7	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(週及認定4~6月分1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	29,700	5.10.13
8	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(第2期分 508名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	25,146,000	5.10.31
9	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(週及認定7~11月分1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	49,500	5.11.14
10	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(週及認定7~11月分 2名、10・11月分2名)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	138,600	5.11.30
11	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(転学生徒11月分1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	-9,900	5.12.15
12	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(第3期分 511名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	20,235,600	6.1.31
計		12件	/	/	61,057,300	/

□□□□□□

負担金支出調

(令和6年度)
(令和7年3月31日現在)

整理 番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国高等学校長協会第76回総会・研究協議会参加費	全国高等学校長協会会長	全国高等学校長協会総会・研究協議会案内	高等学校教育の相互連携を深め教育推進を図る	円 4,000	6.5.1
2	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会参加費	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会会長	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会案内	高等学校教育の相互連携を深め教育推進を図る	2,000	6.7.4
3	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第1期分 510名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	15,147,000	6.7.31
4	全国普通科高等学校長会第74回総会・研究協議会参加費	全国普通科高等学校長会会長	全国普通科高等学校長会第74回総会・研究協議会案内	高等学校教育の相互連携を深め教育推進を図る	6,000	6.8.23
5	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第2期分 506名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	25,047,000	6.10.31
6	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (転学生徒11月分 1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	-9,900	6.11.22
7	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (遡及認定生徒1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	49,500	6.11.29
8	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第3期分 506名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	20,037,600	7.1.31
計		8件	/	/	60,283,200	/

□□□□□□

建 築 工

整理 番号	予 算 科 目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 設計金額	契 約 金	
					当 初 額	変更増減額
1	教育管理費	電話設備更新工事	三島市文教町1 丁目3番18号	円 2,310,000	円 1,834,800	円 0
2	教育管理費	普通教室空調設備 室外機修繕工事	三島市文教町1 丁目3番18号	円 2,475,000	円 2,475,000	円 0
		合計	2件	円 4,785,000	円 4,309,800	円 0

事 調

(令和5年度)

額	契約 締結 方法	請 負 者	着 手 完 成 (予 定) 年 月 日	支 出 済 額	工 事 概 要	公 有 財 産 台 帳	摘 要
計							
円 1,834,800	随契	株式会社宇式通 信システム	着手 5.12.27 完成 6. 3.19	円 1,834,800	電話交換機更 新	—	令達年月日 5.12.13 最終支払年月日 6. 4.26 随契1号(少額)
2,475,000	随契	静岡ガス・エン 지니어リング株 式会社	着手 6. 2. 2 完成 6. 3.25	2,475,000	空調機器修繕	—	令達年月日 6. 1.15 最終支払年月日 6. 4.30 随契1号(少額)
4,309,800				4,309,800			

□□□□□□

建 築 工

整理 番号	予 算 科 目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 設計金額	契 約 金	
					当 初 額	変更増減額
1	教育管理費	防災監視盤基板更新工事	三島市文教町1丁目3番18号	円 880,000	円 824,450	円 0
		合計	1件	880,000	824,450	0

(参考)

整理 番号	予 算 科 目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 設計金額	契 約 金	
					当 初 額	変更増減額
1	教育管理費	令和6年度 [第36-Z0315-01号] 三島北高等学校格技 場屋根ほか改修工事	三島市文教町 地内	円 21,967,000	円 20,130,000	円 891,000

事 調

(令和6年度)
(令和7年3月31日現在)

額	契約締結方法	請負者	着手完成(予定)年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
計							
円 824,450	随契	広伸防災株式会社	着手 7. 1. 9 完成 7. 3. 25	円 824,450	防災監視盤基板更新	—	令達年月日 6. 12. 13 最終支払年月日 7. 3. 31 随契1号(少額)
824,450				824,450			

額	契約締結方法	請負者	着手完成(予定)年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
計							
円 21,021,000	一般	駿豆建設株式会社	着手 6. 7. 5 完成 6. 11. 29 (修補 7. 2. 27)	円 21,021,000	格技場屋根ほか改修工事	—	沼津土木事務所

□□□□□□

公 有 財 産 調

(令和6年度)

(令和7年3月31日現在)

区 分	令和6年4月1日 現 在		増		減		令和7年3月31日現在		摘要
	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 609,349		千円 1,058		千円		千円 610,407	
立木竹	14本	140					14本	140	
建物	$\frac{7,075.13\text{m}^2}{13,984.10\text{m}^2}$	577,683					$\frac{7,075.13\text{m}^2}{13,984.10\text{m}^2}$	577,683	
工作物	54個	31,526	1個	1,058			55個	32,584	
普通財産		14,661		0		0		14,661	
土地	163.68 m^2	14,661					163.68 m^2	14,661	
公有財産に 準ずるもの		161		0		0		161	
電話加入権	5件	161					5件	161	

□□□□□□

公 有 財 産 調

(令和5年度)

区 分	令和5年3月31日 現 在		増		減		令和6年3月31日現在		摘要
	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 654,836		千円 0		千円 45,487		千円 609,349	
立木竹	14本	140					14本	140	
建物	$\frac{7,075.13\text{m}^2}{13,984.10\text{m}^2}$	619,470				41,787	$\frac{7,075.13\text{m}^2}{13,984.10\text{m}^2}$	577,683	
工作物	54個	35,226				3,700	54個	31,526	
普通財産		14,661		0		0		14,661	
土地	163.68 m^2	14,661					163.68 m^2	14,661	
公有財産に 準ずるもの		161		0		0		161	
電話加入権	5件	161					5件	161	

□□□□□□

借地借家等調

(令和6年3月31日現在)

整理 番号	区 分	種 別	所在地	地 目		数量又 は面積	借 料		契 約 期 間	所有者又 は契約者 氏 名	用 途
				台 帳	現 況		単 価	年 額			
1	土 地	宅 地	三島市 文教町 1-2803- 16	学校 敷地	学校 敷地	m ² 44,173.70	円	円			
2	立木竹	樹 木	”	学校 敷地	学校 敷地	本 38		32,452,525	R3.7.1~ R33.6.30	国	学校 敷地
3	工作物	困 障	”	学校 敷地	学校 敷地	m 154					
4	土 地	宅 地	三島市 文教町 1-2803- 52	宅 地	宅 地	m ² 24.90		104,580	R5.4.1~ R6.3.31	(株)秀英予備 校	雨水 排水 管敷 地
5	建 物	事務所 建	三島市 文教町 1-2803- 16	鉄筋 2階建	鉄筋 2階建	m ² <u>493.35</u> 898.78		免 除	R5.4.1~ R8.3.31	(一社)三島 北高等学校 後援会	生活館
6	建 物	雑屋建	”	木造 平屋建	木造 平屋建	m ² <u>7.29</u> 7.29		免 除	R5.4.1~ R8.3.31	”	東 屋
	計							32,557,105			

□□□□□□

借地借家等調

(令和7年3月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地目		数量又 は面積	借料		契約 期間	所有者又 は契約者 氏名	用途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	宅地	三島市 文教町 1-2803- 16	学校 敷地	学校 敷地	m ² 44,173.70	円	円			
2	立木竹	樹木	"	学校 敷地	学校 敷地	本 38		34,075,151	R3.7.1~ R33.6.30	国	学校 敷地
3	工作物	囲障	"	学校 敷地	学校 敷地	m 154					
4	土地	宅地	三島市 文教町 1-2803- 52	宅地	宅地	m ² 24.90		104,580	R6.4.1~ R7.3.31	(株)秀英予備 校	雨水排水 管敷地
5	建物	事務所建	三島市 文教町 1-3-18	鉄筋 2階建	鉄筋 2階建	m ² <u>493.35</u> 898.78		免除	R5.4.1~ R8.3.31	(一社)三島 北高等学校 後援会	生活館
6	建物	雑屋建	"	木造 平屋建	木造 平屋建	m ² <u>7.29</u> 7.29		免除	R5.4.1~ R8.3.31	"	東屋
7	土地	公衆用道路	三島市 文教町 2803-16			m 1.40		免除	R4.4.1 ~ R9.3.31	静岡県知事	下水道管 接続
8	土地	学校用地	三島市 文教町 1-3-93			m ² 4.80		免除	R5.4.1 ~ R8.3.31	静岡県立三 島長陵高等 学校長	給水管理 設地
9	工作物	冷暖房装置	三島市 文教町 1-3-18			個 1.00		2,636,159	R6.7.1 ~ R19.6.30	NTT・TC リース株式 会社静岡支 店	特別教室 空調
	計							36,815,890			

□□□□□ □

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和6年度)
(令和7年3月31日現在)

区 分	事業名又は契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)											
				平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	
長期継続 契 約	電子複写機賃貸借契約	電子複写機2台 (契約日) 令和6年4月1日	615,120	円	円	円	円	円	円	123,024	123,024	123,024	123,024	123,024	
	高速カラー印刷機賃貸借契約	高速カラー印刷機1台 (契約日) 令和5年2月7日	3,300,000				55,000	660,000	660,000	660,000	660,000	660,000	605,000		
	静岡県立三島北高等学校外10校警備業務委託契約	警備機器一式 (契約日) 令和元年9月12日	15,578,750	1,425,600	2,851,200	3,168,000	3,198,800	3,290,100	1,645,050						
	静岡県立三島北高等学校外10校警備業務委託契約	警備機器一式 (契約日) 令和6年9月18日	19,965,000							1,996,500	3,993,000	3,993,000	3,993,000	3,993,000	1,996,500

□□□□□□

行政財産貸付・使用許可調

(令和7年3月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又 は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期間	貸付又は使用許 可を受けた者の 氏名	貸付・使 用許可目 的
				台帳	現況		単価	年額			
1	建物	事務所建	三島市 文教町 1-3-18	RC造 陸屋根	RC造 陸屋根	2.16㎡		12,190	6.4.1 ～ 9.3.31	(一社)三島北高 等学校 後援会	自動販売 機設置
2	〃	〃	〃	〃	〃	1.50㎡		299,200	5.4.1 ～ 8.3.31	サントリービバ レッジソリュ ーション(株)	自動販売 機設置
3	〃	〃	〃	〃	〃	0.71㎡		免除	2.4.1 ～ 7.3.31	(一社)三島北高 等学校 後援会	空調設備 設置
4	〃	〃	〃	〃	〃	0.07㎡		免除	6.4.1 ～ 9.3.31	三島市	防災無線 設置
5	〃	〃	〃	〃	〃	230.85㎡		免除	6.4.1 ～ 9.3.31	(一社)三島北高 等学校 後援会	食堂設置
6	〃	〃	〃	〃	〃	9.90㎡		免除	6.4.1 ～ 9.3.31	三島北高等学 校 P T A	執務場所 設置
7	〃	〃	〃	〃	〃	0.71㎡		免除	2.4.1 ～ 7.3.31	(一社)三島北高 等学校 後援会	空調設備 設置
8	〃	〃	〃	〃	〃	1.00㎡		免除	6.4.1 ～ 9.3.31	(一社)三島北高 等学校 後援会	公衆電話 設置
10	〃	〃	〃	〃	〃	1,092.00㎡		免除	6.6.18 ～ 6.6.18	三島市	避難所設 置
11	〃	〃	〃	〃	〃	1,516.38㎡		3,680	6.7.14	(公財)日本英 語検定協会	第1回実用 英語技能検 定
12	〃	〃	〃	〃	〃	1,516.38㎡		3,680	6.11.17	(公財)日本英 語検定協会	第2回実用 英語技能検 定
13	〃	〃	〃	〃	〃	348.75㎡		10,700	6.5.11, 6.7.13, 6.9.7, 6.11.2	三島市	三島市ス ポーツアカ デミー
14	〃	〃	〃	〃	〃	374㎡		810	6.4.29	グランドワーク 三島	能登半島支 援活動
15	〃	〃	〃	〃	〃	9,836.81㎡		免除	7.1.17 ～ 7.1.19	常葉大学	令和7年度 大学入学共 通テスト試 験会場
16	〃	〃	〃	〃	〃	21.61㎡		免除	6.4.1 ～ 9.3.31	ふじのくに中 学 校	駐車場敷地
	合計							330,260			

□□□□□□ □

普通財産・借受財産等貸付調

(令和7年3月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又 は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期間	貸付又は使用許可 を受けた者の氏名	貸付・ 使用許 可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	三島市文教町1-3-18	学校敷地	学校敷地	4.00㎡		855,000	5. 4. 1 ～ 8. 3. 31	サントリービバレッジソリューション(株)	自動販売機設置
2	"	"	"	"	"	34.53㎡		免除	6. 4. 1 ～ 7. 3. 31	三島北高等学校PTA	駐車場敷地
3	"	"	"	"	"	本柱4本 支柱1本 支線2条 支線柱1本	1,500	12,000	6. 4. 1 ～ 9. 3. 31	東京電力パワーグリッド(株)静岡総支社	電柱等敷地
4	"	"	"	"	"	566.84㎡		免除	5. 4. 1 ～ 8. 3. 31	(一社)三島北高等学校 後援会	生活館敷地
5	"	"	"	"	"	17.23㎡		免除	6. 4. 1 ～ 7. 3. 31	三島市	防災倉庫敷地
6	"	"	"	"	"	16.81㎡		免除	5. 4. 1 ～ 8. 3. 31	(一社)三島北高等学校 後援会	東屋敷地
7	"	"	"	"	"	本柱1本 支線1条 引上分線 管路2条 (0.44㎡)	1,500	4,500	5. 4. 1 ～ 8. 3. 31	西日本電信電話(株)静岡支店	電柱等敷地
8	"	"	"	"	"	引上分線 管路1条 (0.22㎡)	1,500	1,500	5. 4. 1 ～ 8. 3. 31	(株)TOKAI ケーブルネットワーク	電柱等敷地
9	"	"	"	"	"	1,273.75㎡		免除	7. 1. 17 ～ 7. 1. 19	常葉大学	令和7年度 大学入学共 通テスト試 験会場駐車 場
10	建物	事務所建	"	鉄骨造 2階建	鉄骨造 2階建	898.78㎡		免除	7. 1. 17 ～ 7. 1. 19	常葉大学	令和7年度 大学入学共 通テスト試 験会場
11	土地	職員住宅	三島市川原ヶ谷280-1	宅地	宅地	50.00㎡		200,000	6. 4. 1 ～ 7. 3. 31	個人	普通財産一時貸付
	合計							1,073,000			

□□□□□□ □

主要備品調

(令和7年3月31日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利用状況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	2-1	パーソナルコンピュータ (一式)	パーソナルコンピュータ (一式) 平成28年度 I C T 環境整備機器 (三島北高等学校)	毎日 (年間220日) 授業、部活動 に使用	平成29. 3	円 5,778,000
2	3-3	プロジェクター	プロジェクター (三島北高等学校)	毎日 (年間 220日) 授業 に使用	令和3. 3	4,908,750
3	2-1	パーソナルコンピュータ (一式)	パーソナルコンピュータ (一式) (三島北高等学校)	毎日 (年間 220日) 授業 に使用	令和3. 3	3,672,650
4	1-4	移動書庫	移動書庫 コンゴウ KZ-CJ型 手動式スチール製 複式可動棚 7段3連式 9台 単式固定棚 7段3連式 1台	常時 (年間365日) 図書室用	平成4. 9	2,678,000
5	3-3	その他の映写機	ビデオプロジェクター ナショナル TH-B1010C 天井吊下7型 高輝度電磁集束投影管3本式	月4回 (年間48日) 視聴覚教育、 授業に使用	平成6. 2	1,275,000
6	10-12	トレーニング用器具	トレーニング用具 レッグカール・ エクステンションマシーン セノー BA-2113	毎日 (年間220日) 部活動に使用	平成1. 12	1,107,250
7	10-12	トレーニング用器具	トレーニング用具 バタフライ・ ローイングマシーン セノー BA-2413	毎日 (年間220日) 部活動に使用	平成1. 12	952,750
8	10-7	鍵盤楽器	グランドピアノ ヤマハ GIE 88鍵盤 149*161*101cm 黒鏡面艶出塗装	毎日 (年間220日) 授業、部活動 に使用	平成4. 11	952,750
9	2-3	音響再生機器	音響再生機器	毎日 (年間220日) 校内放送用	平成29. 2	874,800
10	10-6	教育調理器具	調理実習台 ヤガミ YF-29GH 2000*900*800mm 電子コンベック RBR-310ED付	月4回 (年間48日) 授業に使用	平成4. 9	777,650

□□□□□□ □

主 要 備 品 調

(令和7年3月31日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利用状況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
11	10-6	教育調理器具	調理実習台 ヤガミYF-29GH 2000*900*800mm 電子コンベックRBR-310ED付	月4回 (年間48日) 授業に使用	平成4.9	円 777,650
12	1-14	エアコンディ ショナー	空冷ヒートポンプ空調機	毎日 (年間150 日) 授業、会議に 使用	令和4.6	715,000
13	1-13	食品食器洗浄 機	食器洗浄機 AIHO SM-5 ポンプ及びコンベア電動機1台 ブラシ電動機1台	毎日 (年間180日) 後援会貸付物 品として、食 堂に使用	平成9.3	691,336
14	1-4	その他の収納 保管庫	簡易物置 イナバ ベイシーMBW-215H 6100*3050*2380mm	常時 (年間365日) 屋外用器具 入、部活用	平成18.3	680,400
15	6-4	変圧器整流器	電源装置 ダントン PS-A-J 電動式電圧制御方式 600*878*1000mm	月2回 (年間24日) 授業、教材準 備に使用	平成4.8	663,000
16	1-14	エアコンディ ショナー	空冷ヒートポンプ空調機	毎日 (年間150 日) 授業、会議に 使用	令和4.3	660,000
17	2-3	その他の再生 機器	電子黒板 75インチ	毎日 (年間150日) 授業、部活動 に使用	令和2.9	638,000
18	10-7	鍵盤楽器	グランドピアノ C2LCP	毎日 (年間220日) 授業、部活動 に使用	平成29.7	630,000
19	12-1	雑機器	簡易物置 イナバ ナイソーSMK-90H	常時 (年間365日) 部活動用	平成16.3	614,250
20	12-1	雑機器	簡易物置 イナバ ナイソーSMK-90H	常時 (年間365日) 部活動用	平成16.3	614,250

職 員 調

(令和7年4月1日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	校 長	松 下 明 子		□□□	□年 □月	□□□□□
2	副 校 長	勝 間 田 浩 文		□□□	□ □	□□□□□
3	教 頭	古 瀬 裕 也		□□□	□ □	□□□□□
4	事 務 長	飯 田 実		□□□	□ □	□□□□□
5	教 諭	坂 本 伸 一	地歴公民	□□□	□ □	□□□□□
6	教 諭	長 谷 川 洋 行	数 学	□□□	□ □	□□□□□
7	教 諭	鈴 木 由 美 子	数 学	□□□	□ □	□□□□□
8	教 諭	中 村 一 史	数 学	□□□	□ □	□□□□□
9	教 諭	加 藤 秀 明	地歴公民	□□□	□ □	□□□□□
10	教 諭	長 谷 川 泰 一	保健体育	□□□	□ □	□□□□□
11	教 諭	渡 邊 和 子	国 語	□□□	□ □	□□□□□
12	教 諭	稻 木 和 彦	理 科	□□□	□ □	□□□□□
13	教 諭	渡 邊 伸 一	理 科	□□□	□ □	□□□□□
14	教 諭	飯 田 美 穂	国 語	□□□	□ □	□□□□□
15	教 諭	袴 田 隆 司	英 語	□□□	□ □	□□□□□
16	教 諭	吉 田 昌 浩	数 学	□□□	□ □	□□□□□
17	教 諭	鈴 木 剛 志	理 科	□□□	□ □	□□□□□
18	教 諭	中 島 由 美	英 語	□□□	□ □	□□□□□
19	教 諭	山 田 達 也	地歴公民	□□□	□ □	□□□□□
20	教 諭	三 井 弘 美	国 語	□□□	□ □	□□□□□
21	教 諭	野 村 一 美	国 語	□□□	□ □	□□□□□
22	教 諭	多 々 良 修	英 語	□□□	□ □	□□□□□
23	教 諭	山 梨 睦	理 科	□□□	□ □	□□□□□
24	教 諭	小 泉 保 子	保健体育	□□□	□ □	□□□□□
25	教 諭	才ガ夕彩野	英 語	□□□	□ □	□□□□□
26	教 諭	渡 邊 博 子	国 語	□□□	□ □	□□□□□
27	教 諭	玄 長 幸 広	数 学	□□□	□ □	□□□□□
28	教 諭	山 崎 雄 治	数 学	□□□	□ □	□□□□□
29	教 諭	鈴 木 啓 史	保健体育	□□□	□ □	□□□□□
30	教 諭	山 本 達 也	数 学	□□□	□ □	□□□□□

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
31	教諭	小林和樹	保健体育	□□□	□ □	□□□□□
32	教諭	藤田哲也	英語	□□□	□ □	□□□□□
33	教諭	上田剛史	理科	□□□	□ □	□□□□□
34	教諭	長田裕介	数学	□□□	□ □	□□□□□
35	教諭	内村優	国語	□□□	□ □	□□□□□
36	教諭	小泉友里	保健体育	□□□	□ □	□□□□□
37	教諭	大石剛士	地歴公民	□□□	□ □	□□□□□
38	教諭	萬真一	英語	□□□	□ □	□□□□□
39	教諭	清水俊之	地歴公民	□□□	□ □	□□□□□
40	教諭	高井翔平	地歴公民	□□□	□ □	□□□□□
41	教諭	斉藤正樹	地歴公民	□□□	□ □	□□□□□
42	教諭	神谷拓見	理科	□□□	□ □	□□□□□
43	教諭	勝呂優実子	英語	□□□	□ □	□□□□□
44	教諭	鈴木しほ子	英語	□□□	□ □	□□□□□
45	教諭	八木美希	数学	□□□	□ □	□□□□□
46	教諭	岡崎慶子	地歴公民	□□□	□ □	□□□□□
47	教諭	竹下佳祐	数学	□□□	□ □	□□□□□
48	教諭	望月真樹	英語	□□□	□ □	□□□□□
49	教諭	堀池志帆	理科	□□□	□ □	□□□□□
50	教諭	佐藤陽太	地歴公民	□□□	□ □	□□□□□
51	教諭	松山華穂	国語	□□□	□ □	□□□□□
52	教諭	鷹尾駿	保健体育	□□□	□ □	□□□□□
53	講師	オンカイミン	英語	□□□	□ □	□□□□□
54	養護教諭	小津有記	養護	□□□	□ □	□□□□□
55	主任実習助手	上妻美砂恵	理科	□□□	□ □	□□□□□
56	主査	佐藤恵美	人事会計	□□□	□ □	□□□□□
57	主任	小玉さつき	管財	□□□	□ □	□□□□□
58	主事	下山紗輝	庶務	□□□	□ □	□□□□□
59	主事	堀江渚沙	給与服務	□□□	□ □	□□□□□
60	技能長	芹澤直樹		□□□	□ □	□□□□□
平均年数					□ □	

(別 表)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	外国語指導講師	Reinalene Gonzaga	英 語	□□□	□ □	□□□□□
2	非常勤講師	船 越 有 映	音 楽	□□□	□ □	□□□□□
3	非常勤講師	長 谷 川 將 丈	美 術	□□□	□ □	□□□□□
4	非常勤講師	天 野 久	書 道	□□□	□ □	□□□□□
5	非常勤講師	高 井 真 喜 子	家 庭	□□□	□ □	□□□□□
6	非常勤講師	星 子 真 由 美	理 科	□□□	□ □	□□□□□
7	非常勤講師	白 鳥 奈 美	理 科	□□□	□ □	□□□□□
8	非常勤嘱託員	若 菜 恵 子		□□□	□ □	□□□□□
9	非常勤労務職員	田 中 昌 三		□□□	□ □	□□□□□
10	非常勤労務職員	伊 藤 良 孝		□□□	□ □	□□□□□
11	学 校 医	小 山 洋	内 科	□□□	□ □	□□□□□
12	学 校 医	永 井 重 夫	眼 科	□□□	□ □	□□□□□
13	学 校 医	田 中 幹 夫	耳 鼻 科	□□□	□ □	□□□□□
14	学校歯科医	上 杉 秀 之	歯 科	□□□	□ □	□□□□□
15	学校薬剤師	田 嶋 ゆ かり		□□□	□ □	□□□□□

□□□□□ □

職 員 の 年 齢 調

(令和7年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0人	
20歳以上30歳未満	9	
30歳以上40歳未満	7	
40歳以上50歳未満	19	
50歳以上56歳未満	6	
56歳以上61歳未満	11	
61歳以上	8	再任用職員
計	60	平均年齢 46.0歳

□□□□□ □

健 康 管 理

1 令和6年度受診状況

区 分	内 容
受診状況	受診者数 61 人
	職員数 61 人
受診率	100 %
県平均受診率	100 %

(1) 未受診の理由

2 令和7年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0(0) 人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。 また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要治療	0(0) 人
B 2		要経過観察	0(0) 人
C 1	勤務をほぼ平常に行っても症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要治療	0(0) 人
C 2		要経過観察	0(0) 人
D 1	平常の勤務でよい。	要治療	26(26) 人
D 2		要経過観察	18(18) 人
D 3		医療不要	14(14) 人
区 分 者 計			58(58) 人
未 区 分 者 数			2(2) 人
合 計			60(60) 人

(1) 管理区分A～C 2 該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア □□□□□□□□ □人
 イ □□□□□□□□ 人
 ウ □□□□□□□□ 人
 エ □□□□□□□□ □人